

2025 年度

《第 1 回総合入試》

国語

時間 50 分、100 点満点

受験上の注意

- 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
- 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。
記入方法を誤ると得点になりません。
- 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも回収します。

郁文館中学校

一 次の文章を読んで後の問い合わせに答えなさい。

郁文館の「七つの約束」の中には、『論語』の教えに大きく重なるものがあります。「約束を守れ嘘をつくな」もその一つで、『論語』にこんな章句があります。

子曰く、人にして信（しん）無（な）くんば、その可（か）なるを知らざるなり（為政第一）
——信用がない人に良いところはなく、どうしようもない

「信」とは、約束を違えず人を欺かない誠や誠実さ。わかりやすく信用といつてもいいでしょう。「その可なるを知らざるなり」という言葉は、「その人には良いところがなく、どうしようもない」という意味です。この章句の意味を説明するだけなら、「信用がなければいけない」という一言で終わりです。それでは子どもたちの心に響かず、何の面白さもありません。『論語』のこの章句について私がよく話すのは、起業して間もない頃に会社が潰れそうになつたエピソードです。

二十四歳で起業した私は、一軒目の居酒屋「つぼ八」を軌道に乗せ、またたく間に三店舗を開拓するまでになりました。ところが起業してから二年後に約一億円の借金をして始めた四軒目の居酒屋の経営に失敗。巨額の赤字を抱えてしまつたのです。

銀行に融資を断られ、資金繰りに困つてどうしようもなくなつたとき、①私を助けてくれる人が現れました。かねてから取引のあつた酒屋さんが、まとまつたお金を、何の保証もなく貸してくれたのです。彼のお陰で、私は経営危機を乗り切ることができました。危機を脱した私は、その酒屋さんを訪ねて感謝の言葉を述べ、「あのときなぜ私を助けてくれたのですか」と聞いたのです。

彼は、「渡邊さんはいつも、月末の支払い日の一、二日前に商品代金を振り込んでくれていた」といいました。これは、亡き父の教えです。経営者だった父は、「支払いを一日や二日早めても、うちには何の損もない。（　a　）、お金を受け取る取引先様にすれば、とても嬉しいものだよ」と話していました。

銀行振込の手数料についてもそうです。仕入れ先に代金を支払うA際、手数料を差し引いて振込をする会社が少なくありません。でも私たちとは、振込手数料を自社で負担していました。「振込手数料ぐらいは自分で持ちなさい。小さな額でも、四百円や八百円の手数料を削られたほうの身になつて考えなさい」と父に教えられたからです。小さなことかもしれません。でも、日々それを繰り返していく中で培われた信用が、危機のときにわが身を助けてくれたのです。

経営の第一線で三十数年間活動してきた中で、私が痛感しているのは、信用はかけがえのない財産だということです。今回のコロナ禍で、銀行の方も含めて、周囲の皆さんがあたたかに応援して下さったのも、信用をおいてほかにはありません。メインバンクが「御社は絶対に潰さない」という姿勢を取つて下さったのも、取引業者さんから多大なご支援をいたしましたのも、私たちが積み上げてきた信用に応えて下さったからです。その意味で、信用とは、自分の生き方に対する評価でもあるわけです。

私が、「信用はかけがえのない財産で、『君は信用できない』といわれたら、それは命がないのと同じだよ」と、あえて授業で強調しているのもそのためです。この章句について、言葉の意味を説明するのはそれほど難しくありません。むしろ、私たちが子どもたちに本当に教えなければならないのは、なぜ信用がそれほどまでに大事なのかということ。自分の体験を交えて章句の意味を説明すれば、「なるほど。②信用って本当に大事なんだな」と、子どもたちは納得してくれます。

君子は義に喻（さと）り、小人（しょうじん）は利に喻（さと）る（里仁第四）
——立派な人物は善悪で物事を理解し、つまらない人物は損得で物事を理解する

この章句は、私たちが「七つの約束」にある「損得ではなく善悪で判断せよ」という言葉を通じて教えることを、明確にいい表しています。「義」とは善悪や道理、すなわち物事の正しい筋道のことと、「喻る」とは理解すること。（　b　）、「自分の利益になるかどうかではなく、善悪で物事を判断しなさい」と、孔子先生は論しているのです。

この章句についても、私は「③自先の利益に走つてはいけない」と、自分の実体験を交えて話しています。私が起業し、有限会社渡美商事を創業した一九八四年は、「バブル景気」の真っ直中でした。今ではとても想像できないと思いますが、日本中が好景気に沸き、高級品が飛ぶように売れました。一九八九年十二月二十九日には、日経平均株価が史上空前となる三万八千九百五十七円の最高値をつけたのです。当時は「財テク」ブームで、多くの経営者が株式投資や不動産投資などに手を染め、その後のバブル崩壊とともに消え去つていきました。私自身も、ある金融機関から「今ここに二億円があります。このお金を使って土地でも株でも好きなものを買って下さい」と投資を勧められました。「B地価」は値上がりするので、元金も利子もそのあとで返済してくれればいいですよ」というのです。

でも私は、「お金はもちろん大事ですが、二番目です。（ア）汗をかかずにお金を手に入れるることはできません。（イ）」と

いつて融資を断りました。（ウ）私はそんな話をしながら、「『利に喩る』というのは、人を裏切ったり、嘘をついたり、調子よく立ち振る舞つたりしてまでお金を手にしようとすること。（エ）短期的にはそうやって利益を得ることはできても、長期的には幸せになれません」と生徒たちに教えています。（オ）

私が、この章句と合わせて話しているのが、「④思考の三原則」です。「思考の三原則」とは、「元から考える、多面的に考える、長期的に考える」こと。「元から考えてごらん、多面的に考えてごらん、それから長期的に考えてごらん。今ここで、人を騙してまで利益を追求したとしよう。短期的にはお金を手に入れられるかもしれない。でも、いざれ嘘がばれて信用を失い、挙げ句の果てには罪に問われるだろう。長期的にみれば、目先の利益を追求することで、じつは大きな財産を失っているんだ」と、私は生徒たちに話しています。「利に喩る」のではなく「義に喩る」ことを、「思考の三原則」と合わせて教えることで、生徒たちがこの章句を、自分の身に置き換えて考えることを期待しているのです。

「そもそも、自分はなぜ事業を始めたのか」と元から考える。「自分が事業を始めたのはお金のためなのだろうか」と、原点に立ち返る中で、「利に喩る」ではなく「義に喩る」ことができるようになります。一方、「自分はこのやり方が正しいと思うが、他の人はどう思うだろう?」という視点を持つことも大事です。□ i □に考えることで、自分が今していることが、周囲の人には「おかしい」と映つてることがわかるかもしれません。□ ii □に考えることも重要です。今、利益を出すことにこだわりすぎると、お客様や仕入先が離れて、□ ii □にみて損をするからです。そんな自分の姿を、周囲の人たちはみています。（c）「利に喩る」ことはじつは大損で、遠回りではあっても「義に喩る」ことが、得をするための近道だといえるのです。こういうことを、子どもたちが社会人になる前に教えることが、人間教育の礎になると考へ、私は教壇に立ち続けています。

『論語』のこの章句は、私にとって、経営における意思決定の拠り所にもなっています。たとえばコロナ禍の中で、外食産業には「時短要請を守らずに店舗を開けていたほうが儲かる」という考え方があったのは事実です。そんな中でも、ワタミグループは頑なに時短要請を守り続けました。「君子は義に喩り、小人は利に喩る」という章句が、⑤経営判断の軸になつてゐるので、たとえ赤字が出ても、「目先の損得で物事を考えてはならない、時短要請を守る」という方針がぶれなかつたのです。

私がコロナ禍での経営において、もう一つ「義に喩る」ことにこだわった方針があります。それは雇用の維持です。ワタミグループは、緊急事態宣言対象地域の店舗で休業、もしくは時短営業を実施しました。それにともない、多くの社員に一時帰休をお願いせざるを得ませんでした。経営陣の中には、一時帰休をしている社員を対象に早期退職を募集したほうが、会社としてはプラスだという考え方があったのもC事実です。でも私は、「社員は絶対に『一人も辞めさせない』という判断を変えませんでした。雇用を維持しながら持ちこたえようと、必死に経営努力を続けたのです。

『論語』とともに生きてきたから、社員の雇用を守ることも「義」だという判断の軸ができたのです。郁文館の生徒たちにも、『論語』を通じて自分自身の価値判断の基準を身につけてもらいたいと思います。

（ 渡邊美樹 『論語に学ぶ我が子の夢の叶え方』より ）

※出題の都合上、省略・改編した箇所があります。

問一 線部A～Cの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

()欄 a～cに入る語として、もつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア また イ だからこそ ウ つまり エ でも

（ ）欄 a～cに入る語として、もつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

（ ）欄 a～cに入る語として、もつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「私」が起業してから、一軒目の居酒屋を軌道に乗せ、すぐに三店舗まで展開する姿に可能性を感じたから。イ 「私が起業してから、支払い日の前日まで商品代金を振り込んでくれるところに誠実さを感じたから。ウ 「私が起業の後に、銀行手数料を自社で負担していることを知つており、その姿勢に信用性を感じたから。エ 「私が起業の後に、自分の酒屋まで訪ねて感謝の言葉を述べることのできる考え方と信頼感を感じたから。

線部①「私を助けてくれる人」とありますが、「私を助けた」理由としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「私」が起業してから、支払い日の前日まで商品代金を振り込んでくれるところに誠実さを感じたから。イ 「私が起業してから、支払い日の前日まで商品代金を振り込んでくれるところに誠実さを感じたから。ウ 「私が起業の後に、銀行手数料を自社で負担していることを知つており、その姿勢に信用性を感じたから。エ 「私が起業の後に、自分の酒屋まで訪ねて感謝の言葉を述べることのできる考え方と信頼感を感じたから。

線部②「信用」とあります、同じ意味の言葉を本文から十七字で探し、書き抜いて答えなさい。

線部③「目先の利益に走ってはいけない」とありますが、その内容としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア バブル景気の時には、日本中の高級品をたくさん購入しておかなければならない。
イ バブル景気の時には、明らかにいい話でも利益になるもの以外選んではならない。
ウ バブル景気の時にかかわらず、人としてはならないことで利益を得てはならない。
エ バブル景気の時にかかわらず、必ず長期的な目線で自分の人生を考えなければならない。

本文には、〈次の一文〉が抜けています。本文にもどす時、もつともふさわしい場所を、文中の(ア)～(オ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

〈一番大切なのは自分らしく経営することで、それは額に汗して働くことです。〉

線部④「思考の三原則」とありますが、その具体例の内容としてふさわしくないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 友達とケンカした時、そもそもどうしてケンカになつてしまつたのか考え、友達に謝った。
イ お金持ちになりたいと思い、これまで貯金していたお金を使って宝くじを買うことにして。
ウ テストに失敗したが、この悔しさをこれからバネにしようと思い、毎日勉強を頑張った。
エ 環境問題に対する新聞記事を読んで、自分の意見を持つために別の新聞記事を読んでみた。

文中にある (i) (ii) 入るもつともふさわしいものを次のア～ウの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。(i) (ii) には同じ言葉が入ります。

ア 長期的 イ 短期的 ウ 多面的

線部⑤「経営判断の軸」とありますが、筆者のすべての「経営判断の軸」となる考え方を本文の言葉を使って三十字以上四十字以内で答えなさい。なお、句読点や記号も一字に数えます。

次のア～キのうち、本文内容にふさわしいものには○を、間違っているものには×を選び、それぞれ答えなさい。

ア 筆者は三店舗の居酒屋を経営する中で、信用がなければならないことを論語から学び経営に活かしている。
イ 筆者は自身の経験を通じ、小さなことの繰り返しが時に大きな信用になることを自身の危機から体感した。
ウ 信用は自分の生き方に対する評価なので、「義に喩る」だけが長期的な人生に良いものになると述べている。
エ 「元から考える、多面的に考える、長期的に考える」ことを実践することで、すべてのことは上手くいく。
オ 筆者はコロナ禍の中、長期的に考え、緊急事態宣言対象地域の店舗で休業、もしくは時短営業を実施した。
カ 自身の実体験を踏まえて生徒達に話すことで、「七つの約束」の理解度はさらに深まると言者は述べている。
キ バブル当時、金融機関は筆者的人格を踏まえた上で二億円の投資をすすめたが、筆者はその融資を断つた。

問十

問九

問八

問七

問六

問四

問五

問二

問三

二 次の文章を読んで後の問い合わせに答えなさい。

ぼくは、うどん・そばじはんき。海の見えるこの土地にずっと住んでいる。二百円を入れて、うどんかそばをえらぶと、三十秒でアツアツのおいしいのが食べられるんだ。二十四時間三百六十五日、ずっと作りつづけている。今日も大せいの人があらんでいる。うれしいけれど、①夷由ぼく、かなりくたびれているんだ。四十年もやつてきたから。そんなぼくのことを、みんなは「②ほんこつじはんき」とよんでいる。ぼくのご主人の「すみおさん」も、つかれているようだ。かなりのおじいちやんになつちやつたしね。

今日は日曜日。午前九時。少々、雲行きがあやしいようだ。あつ、いつもの親子がやつてきた。もう一年近く来てくれている。

「お母さん、今日はパートから何時に帰つてくるかな?」

「今度いつしょに母さんもつれて来ようか」

「早くつれて来なきや、なくなつちやうかもよ、このじはんき。ほんこつなんだからさ。」

午前十一時。ぼくの前をたくさん的人が通りすぎていく。正午になれば、またずらーり行列ができるだろう。一味とうがらしのびんが、海の風を受けて右に左にゆれている。

「あれ? 風ふいてきたなあ。今夜はあれれるかも……」

「デートにつれていくつて、こんな所? おどろいた!」

「ごめん。でも、ぼく十年くらい、ずっとここに通つてたんだ。ひとりで……」

「……そつか。だからつれて来てくれたんだね……」

あれ?? ふたりともうどんを食べながら泣いているみたいだ。何か悲しいのかな? ③人間つてよくわからない。

午後二時。よかつた、何とかピーカクを乗り切つたぞ。おつ、大がたバイクに乗つた人たちが近づいてきた。たつちゃんと、その友だちのいつちゃん。知らないわかい人もいつしょだ。

「えーっ。だいじょうぶなのかな。こんなほんこつで、動くんですか?」

「何言つてるんだ。おれ、学生のころから二十年ここに来てるけど、ずーっと味かわんなくて、うまいんだよ」

「たつちゃん、学校さぼって、よく來てたもんな」

「ああ。ここに来て、海見てると、よくだれかがうどん、ごちそうしてくれたんだよな。おれは、このほんこつじはんきといつしょだよ。」

午後五時。今日は、人が多いな。そうか、日曜日だからか。あつ、たかおさんがやつってきた。いつも同じ時間に食べに来てくれる。そして、ぼくは、たかおさんがすみおさんと話しているのを聞いてしまつたんだ。

「こまるんだよな。これがなくなつてしまふのは」

「いやあ、もうげん界なんだよ。しゅう理してもしゅう理してもこわれるんだ」

「でもさ、母ちゃんなくしてから、ここに来るのがおれの日つかになつたんだ。たのむから、ここをたたむなんて言わんでくれよ。こうやつて海見てたら、いろんなことを思い出された。……実は、おれ、がんになつてしまつた」

「え……」

東の空が真っ黒になつてきた。あらしが来るかもしれない。

午後六時。いよいよ雨がふつてきた。今夜は雪になるかも……。ぼくの前には大せいの人があらんでくれている。たかおさんは、木のベンチのすみっこにずーとすわつて、海を見つめている。

さつきのすみおさんとたかおさんの会話がふと思いつかれた。もしかしたら、ぼく、とりこわされてしまふんだろうか?

もうみんなに、会えなくなつちやうの?」

④すみおさん。ぼくはどうなるの?

午後十時。いつのまにか雪になつた。気温二度。こごえそうだ。県外から長きよりトラックの運転手たちがやつて来た。

「あれてしまつたなあ」

「仕方ないな。晴れる日もあればあらしの日もあるよ」

「まあ、うどん食べれば、心(しん)そこあつたまるから、またがんばろう! ! つて思えるよ。この“ほんこつ”的おかげ。がんばつてもらわねば……」

「そうだな。はらも心もあつたまる。さあ、あと五時間、走るとするか……」

明け方四時。また少し雪がちらついている。こんな時間になつても、ぼくをたずねてやつてくる人がいる。あつ、時々見かけるどこかの社長さん。そう言えば、あの人、すみおさんの知り合いだつた。早朝、一人になりたい時、ここに来るつて言つてたつけ。どうかすみおさんがいない時に、こわれませんように……。

今日は日ざしがあたたかい。すみおさんの様子がへんだ。今朝は一度もえがおを見せてくれない。具合でも悪いのかな？「長いことありがとな。今月いっぱい、やめることにしたよ」

ぼくのからだになにやらはり紙をしている。みんながざわざわしている。たかおさんがなみだぐんでいるのが見える。どうとぼくは……。

はり紙「四十年間食べに来てくれてありがとうございました。古くなつてしまつてAコショウすることが多くなり、ご迷惑をおかけしていました。」

※

はじめてここに来た四十年前、ぼくはピカピカで元気だつた。たくさんの人たちのえがおと出会つてきた。なみだも見ていた。今も毎日みんなと会えるのがうれしくてたまらないのにもう終わつてしまふのか……。

「あれ？？今日はいつもの知つた顔がいくつも見える。

「すみおさん！すみおさん！？」

「ぼくら、このぼんこつがなくなるとこまるんだよ。なんとかここに置いてくれよ」

「おれらBショメイを集めて持つてきただよ。近くのポートタワーにCウツして、しゅう理して置いてくれよ。たのむよ！！」

「おねがいします。わたしたちのためにも」

「おじさん、おねがい。お母さんつれて来るから」

「すみおさんよ、おいら夕はん食べられなくなるとこまるよ。こいつは心のよりどころなんだから」

さいごにぼつとたかおさんが言つた。みんな、ぼくをかこんで一生けん命、たのんでくれている。こんなぼんこつなのに……ありがたくて泣けてくる。すみおさんは、下を向いてしまつた。

それから数日がたつた。今日は、三月三十一日。よく晴れた木曜日。いよいよさいごの日がやつてきた。

「いいよだねえ」

すみおさんが、ぼくのからだをピカピカにみがいてくれた。そんなやさしいすみおさんが、ぼくは大きくなんだ。その時だ。ぼくの知つている人たちがたくさんやつて來た。すみおさんは、となりで心なしかにこにこしているように見える。あれ？すみおさんのお友だちの「ひさとさん」もいる。「しゅう理の神様」と言つられていて、いつもぼくのからだをきれいにしてくれる人。**⑤もうおしまいのはずなのに、どうして……？？**

ひさとさんは、しづかにぼくのからだをチェックして、しゅう理してくれた。

「よかつたね、ぼんこつ君。またおいしいうどん、たのみますよ」

カツブルが言つている。

「お母さん、これがぼんこつ君だよ。あのタワーに引っこすことになつたんだ。今日がこの場所で食べられるさいごの日なんだ。来られてよかつたね」

家族四人で来ててくれたんだ。

「すみおさん、今日はこんな時間に来てしまつたよ」

あつ、いつかの社長さんだ。

⑥おれといつしょで、命拾いしたなあ

元気な声で、たかおさんがぼくのからだをポンポンとたたいて言つた。どういうこと？今日でおわかれではないの？

「ほれ、ぼんこつじはんきよ。君は相かわらずぼんこつで、あとどのくらいもつかわからんが、またわしと、がんばつてみるか」

となりですみおさんの声がした。

「わあ……！」

みんなのかん声が聞こえた。

ぼくは、ぼんこつじはんき。新しい場所で二十四時間三百六十五日、今日もまた海を見ながら、みんなが来るのを待つている。ここは秋田市内のある港町。**⑦あたたかで、大切な時間が流れている。**

(由美村嬉々 『ぼくは ぼんこつ ジはんき』より)

※出題の都合上、省略・改編した箇所があります。

問一

線部A～Cのカタカナを漢字に直して答えなさい。（ただし、楷書でていねいに書くこと）

問二

線部①「実は」は修飾語です。この修飾語に対応する被修飾語を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ぼく イ かなり ウ くたびれて エ いるんだ

問三

線部②「ほんこつじはんき」とありますか、本文の「みんな」が「ほんこつじはんき」に対して抱く気持ちとしてふさわしくないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 思慕 イ 親身 ウ 愛着 エ 敬虔

問四

線部③「人間つてよくわからない」について、次の問題に答えなさい。

- (1) そう思つた理由を、本文の言葉を使って四十字以内で答えなさい。なお、句読点や記号も一字に數えます。
- (2) 「ほんこつじはんき」が(1)の理由と同じようになつてゐる一文を探し、はじめの五字を書き抜いて答えなさい。なお、句読点や記号も一字に數えます。

問五

線部④「すみません。ぼくはどうなるの?」とありますか、この時の「ほんこつじはんき」の気持ちを本文の言葉を使って五十字以内で答えなさい。なお、句読点や記号も一字に數えます。

文中にある に当てはまる言葉としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 今週で販売停止させていただきます。

イ 今週で販売終了させていただきます。

ウ 今月末で移動させていただきます。

エ 今月末で閉店させていただきます。

問六

線部⑤「もうおしまいのはずなのに、どうして……??」とありますが、この時の「ほんこつじはんき」の気持ちとしてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア さいごの日にもかかわらず、たくさん的人が来てくれている状況に対しても、不思議に思う気持ち。
イ さいごの日にもかかわらず、たくさん的人がニコニコしている状況に対しても、不安に思う気持ち。
ウ さいごの日にもかかわらず、からだをみがかれたことに、再出発をしてもいいのか戸惑う気持ち。
エ さいごの日にもかかわらず、からだをみがかれたことに対する感謝をする気持ち。

問八

線部⑥「おれといっしょで、命拾いしたなあ」とありますが、「たかおさん」が「命拾い」と言った理由を説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を、本文から二字で探し、書き抜いて答えなさい。

〈たかおさん〉も、以前に（　　二字）になつてしまつたから。〉

問九

線部⑦「あたたかで、大切な時間が流れている」とありますが、この文章と関連する内容とともにつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日進月歩な技術 イ 温故知新な思考 ウ 公明正大な姿勢 エ 温厚篤実な人々

問十

次のア～キのうち、本文内容にふさわしいものには○を、間違っているものには×を選び、それぞれ答えなさい。

ア 三十秒でアツアツのうどん・そばが食べられる「ほんこつじはんき」には、たくさんのファンがいる。
イ 本文「少々、雲行きがあやしいようだ」は、ここから不安なことが起きることを予告する効果がある。
ウ ピークを乗り切った「ほんこつじはんき」は、うどんしか販売できない状況でこの後の時間を迎えた。
エ 雪の中やつて来たトラックの運転手は、車を途中で停めることができず仕方なくうどんを食べている。
オ 「ほんこつじはんき」がなくなることを知つたたくさん的人は、さいごに食べさせて欲しいと訴えた。
カ 本文「東の空が真っ黒になつてきた」は、すみおさんとたかおさんの人間関係を暗喩する効果がある。
キ 「ほんこつじはんき」はピカピカになつて修理された後すみおさんと一緒に別場所で販売を再開した。

問十	問六	問五
ア		
イ		
ウ		
エ		
オ		
カ		
キ		

A
B
C

問二

--

問三

--

問十	ア	
	イ	
	ウ	
	エ	
	オ	
	カ	
	キ	

	問五	問四	問一
			A
	問六		B
			C
	問七		
	問八		問二
i			a
ii			b
			c

問 一	□	
A		
B	
	
C	
	
問 二		
a	番受 号驗	郁文館中學校
b		
c	氏名	
問 三		